

福祉の輪 広げたい



社会福祉法人
緑友会

ホームページ

緑友会

検索



“あゆコロちゃん” 厚木市マスコットキャラクター。ぶたのコロちゃんが相模川沿いを冒険中に釣り人が釣った鮎が頭に
乗って誕生しました。誕生日は厚木市の市制記念日と同じ2月1日で年齢不明の男の子。好奇心旺盛でやんちゃな性格で
すが、厚木市のためにコロちゃんとおアユの2人で力を合わせて新たな冒険に向かっていきます。(写真提供：厚木市広報課)

第34号の内容

厚木市マスコットキャラクター “あゆコロちゃん”	1
NEWS 1～11	2・3
ピックアップ1～7	4～7
リレーコラム 私の気になる話題	8



“あゆコロちゃん” は、厚木鮎まつりの花火大会会場に向いたり、本厚木
駅前のイルミネーションになっているなど、様々な場所で厚木市をPRし
ています。(イルミネーションは2月14日まで)

NEWS 1 お陰様で緑友会法人設立40周年!

令和2年3月、緑友会は設立40周年を迎えました。これもひとえに関係各位・皆様のご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。



当法人の行う障がい者支援や保育といった福祉事業は急激に事業所の数が増え、又、業界全体の処遇改善が求められているまさに激動の時代の真っ只中です。今後も福祉向上のため、なお一層の努力を重ねてまいります。ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

理事長 岩崎尊之

NEWS 2 横浜銀行様からのお心遣い!



横浜銀行様から設立40周年のお祝いの花を頂戴しました。また、10月30日には、平間武志執行役員様・高橋研伊勢原支店長様が就労継続支援B型事業所「つくし」を視察していただき、通所者の平均工賃の実態に理解を示され、励ましのお言葉も頂きました。

NEWS 3 馬場評議員が受賞されました!



愛川舜寿会 みのわホーム

緑友会の馬場学郎評議員(前神奈川県議会議員・(福)愛川舜寿会理事長)が令和2年春の叙勲で旭日双光章を受賞されました。

地方自治や福祉等への多大なご功績に敬意を表しますとともに、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



NEWS 4 三浦参議院議員と田中市議の来訪!

令和2年7月13日に三浦のぶひろ参議院議員と田中しま子伊勢原市議会議員がコロナ禍の福祉事業所の実態視察に来訪されました。

感染対策に注意をはらわれつつ熱心な姿勢に感激しました。

つくし



NEWS 5 2020年度予算・2019年度決算等が承認されました!

令和2年3月の2019年度第3回評議員会は書面開催で、2020年度事業計画及び予算の承認をいただき、6月30日の2020年度第1回評議員会では2019年度事業報告及び収入支出決算の承認をいただきました。

2019年度は、4年ぶりに赤字決算となり、2020年度も新型コロナウイルスの影響による厳しい状況が見込まれますが、毎月の収支状況を厳しく点検し収入確保や歳出削減に努力しています。

第1回評議員会は、コロナ禍での開催のため、写真のように3密=「密閉」「密集」「密接」を避け、伊勢原市社会福祉協議会会議室で開催しました。



NEWS 6 施設長が変わりました！



みどり園：新實施設長



つくし：平田施設長

令和2年4月の人事異動により、つくしの新實施設長がみどり園の施設長に、みどり園の平田施設長がつくしの施設長に就任しました。

新施設長の下、よりよい施設運営に努めてまいりますので、ご支援よろしくお願いたします。

~~~~~

## NEWS 8 コロナに負けない！



新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言解除後も未だに収束することなく、第3波に対するこれまで以上に厳しい感染防止に備えなければならない状況が続いています。冬季の対策を徹底し、気を緩めることなく新型コロナと戦っていきます。

~~~~~

NEWS 10 工夫を凝らしたイベントに！

毎年恒例の清川ホーム・サマーフェスティバルや、みどり園・納涼祭等が新型コロナウイルス感染防止のため中止となりましたが、楽しみにしていた皆さんのために、各施設、様々な趣向を凝らしたイベントを開催し喜んでいただいています。



NEWS 7 福祉展に出展！



令和2年1月15日から17日までの間、伊勢原市立中央公民館で福祉展が開催されました。みどり園からは書道をはじめとする作品を展示させていただきました。多くの方々に作品を見ていただくことは励みになります。コロナ禍でも次回に向けて鋭意制作中です。

NEWS 9 多くのご支援に感謝！



新型コロナウイルス感染防止に対し、国・県・伊勢原市・厚木市・厚木商工会議所など多くの関係機関や個人の方々からマスク・消毒用アルコール等々の物品を支援していただきました。感謝申し上げますと共に引き続き感染防止に努めていきます。

NEWS 11 ストレス解消！



令和2年11月、みどり園で「村瀬ドッグトレーニングセンター」の皆さんに救助犬のデモンストレーションをしていただきました。

穏やかな小春日の下、訓練された救助犬の実演を楽しく観覧し、コロナ禍で外出を制限されているなか、利用者の皆さんはストレスを発散し、心が癒される一時を過ごされました。

新型コロナウイルス感染症が2020年1月16日に初めて国内で確認された以降、7月から8月にかけて第2波、11月には第3波が到来し、再び感染者が増え続け12月1日現在の国内での累計感染者数は14.8万人、死亡者数は2,057名にもなっています。連日、多くの感染者数の報道を耳にし、重症者数も増加している状況です。医療、施設、学校、企業、飲食店、家庭内、コミュニティー等でのクラスターも増加しています。無症状、軽症の感染者も多いことから、知らないうちに感染を広げ、クラスターが発生してしまう状況にあります。



保育園：ソーシャルディスタンスを確保して
体操指導を再開

感染が国内で確認された当初を思い返すと、情報に惑わされず、冷静に対応しようと看護師間でも話し合ったことを覚えています。その時は、ここまで大変な状況になるとは予想もしていなかったというのが正直な思いです。

日に日に感染者数が増え、未知なウイルスの情報が錯綜する中、どの情報が正しいのかと惑わされる毎日でした。

4月7日に緊急事態宣言が発令されると、リモート授業やテレワークが普及して賑やかな街も閑散とし、車が減り、今までに経験したことのない状況を目の当たりにしました。国民一人ひとりが、それぞれの場所で、それぞれの立場で、苦慮し、平凡な日常では、予想もしなかったことが次々に起った毎日だったと思います。5月25日に緊急事態宣言が解除さ

れ、通常の生活に戻りつつも感染予防しながら日常生活を送る「Withコロナ」の時代となり、個人の意識や価値観の変容を求められるようになりました。おうち時間や仕事の仕方を工夫するなど、多様なライフスタイルの選択を迫られ、今までにない経験ができ、「新しい生活様式」の発見ができた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

法人内では、感染者を発生させないことを第一に考え、施設管理者、看護師間で何度も情報交換してマニュアルを作成し、入所施設、通所施設、保育園、グループホームの各施設で行えることは何かを毎日のように考えています。

職員、利用者、園児がとにかく基本的な予防策を行い、3つの密を避けて行動すること、体調管理では、毎日検温し、自覚症状の有無の把握も行い、少しでもいつもと違う体調の場合は、出勤や登園を控えていただくなど、細心の注意を払っています。私生活でも感染リスクが高まる「5つの場面」（飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間に及ぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わり）を避けながら生活する毎日です。



みどり園：外出できない利用者さんのために
カフェを開店



清川ホーム：日帰りレクが中止となり、施設内で
食事会やゲーム大会を開催

現場では、未知なウイルスを背に感染者を出さないようにと気を張る毎日で、職員が疲弊していく姿、利用者さんも本来なら外出できる時期ですが、施設内での活動にストレスを感じている様子、保育園では、いつものようにご家族でお出かけもできず、保護者も子どももストレスの溜まる毎日、行事を中止にせざるを得ない状況でした。その中で、この大変な時期だからこそ、少しでも利用者さんや園児が楽しいと思えることや身体を動かす活動などを各施設の職員が工夫して取り組んでいます。私も園児の無邪気な笑顔に何度も心が救われました。

この先も新型コロナウイルスと向き合っていくことが想定されます。発生状況、幅広く正しい情報に注意しながら、利用者、園児、保護者、職員が安心して生活、仕事ができる環境を模索し続けていきたいと思っています。

（伊勢原ふたば保育園 主任看護師 藤木佐恵子）

ピックアップ2

☐ コロナ禍でのイベント（みどり園） ☐

みどり園では、新型コロナウイルス罹患防止のため、「外泊・外出・面会」を一部制限させていただきました。このため、保護者や利用者の皆様にはご不便をおかけしたと思います。普段と違う生活にストレスを感じられた利用者様もいられたと思いますが、少しでも楽しんでいただき、ストレスが軽減できるよう担当スタッフが、工夫をして毎月イベントを開催してきました。

イベントは5月「テラスカフェ」6月「居酒屋」7月「七夕」8月「納涼」9月「お月見」10月「ハロウィン」11月「災害救助犬デモンストラーション」「バザー＆焼き芋」「ホットドリンクカフェ」など毎月開催しています。全てのイベントは、消毒や換気をしっかり行い、衛生面でも細心の注意を払って行っています。そのうえで、スタッフが準備を重ね、テラスカフェではアロハシャツを着たり、居酒屋では居酒屋店からユニフォームやポスターを借りてきたりして、本当にお店に行った雰囲気を作り出していました。

スタッフの努力が実を結び、すべてのイベントで利用者様が喜んでくださり、たくさんの笑顔を見せてくれました。

毎月のイベントだけで、すべての利用者様のストレスを軽減できるわけではありませので、日中活動や個別支援においても皆様一人ひとりの思いを確認して、コロナ禍でも楽しめることを追求することで少しでも利用者様のモチベーションを保ち、ストレス解消できるように職員一同努めていきます。

今後においては、通信システムの導入やオンライン面会の準備を進め、“withコロナ”の新しい時代に適應できる仕組みを構築していきたいと思います。
(みどり園 施設長 新實正樹)



~~~~~

## ピックアップ3

### ☐ “つくし相談室”といふところ（つくし相談室） ☐

私は、昨年の4月にみどり園からつくし相談室に異動してきました。それから、まもなく1年が経とうとしています。いままで、知的障がいのある方への直接の支援を主にしてきた私にとって、精神障がいのある方の相談支援を主にする業務は不安との葛藤でしたが、1月くらいから引き継ぎを兼ねて、度々相談室へ出向きました。その中で、室長や前任者が具体的な業務を丁寧にかつ親切に教えてくれたことで引き継ぎも順調に進み、少しずつですが不安も少なくなり、何とか4月を迎えることができました。

そして、異動初日の初めての業務は利用者さんの引越しの手伝いでした。しかも、天気はあいにくの雨。大切な荷物を濡れないように大事に運び入れ、無事終了しました。雨に打たれてびしょやりになりましたが、最後に利用者さんからお礼の言葉を頂き、初日に少しは役に立てたかなと思うことができました。

相談室にはいろいろな相談がきます。“病気”“お金”“人間関係”など深刻な相談もありますし、“今日の予定”や“パートナーさんの愚痴”などのいろいろな話を時には深刻な気持ちで聴くこともあれば、同調することもあり、また笑わせてくれたり、心を和ませてくれる話もあります。

業務内容も相談のほか、通院や買い物の同行、転居のお手伝いや書類等手続きの支援などがあります。昨年では特別定額給付金の申請書を一緒に作成することもありました。

相談室の業務は奥が深く、まだまだ経験していないことも多くて不安もありますが、仲間のスタッフと一緒にあって少しでも利用者さんがホッとできるようなサポートができるようになりたいと思います。

(つくし相談室 課長 米満修一)



## ピックアップ4

### ◻ 楽しみながら体力作り（本厚木ふたば保育園） ◻



本厚木ふたば保育園では「さくら・さくらんぼリズム」を保育に取り入れ、毎日音楽に合わせて身体を動かしています。乳児クラスは身体をほぐして柔軟に、そして幼児クラスは年齢ごとにスキルアップし、リズム感を養い体幹を鍛え、バランスの取れた身体作りをめざしています。

私は本厚木ふたば保育園に勤務した昨年度から本格的にリズムに出会いました。職員一同でリズムの研修に参加させて頂く機会もあり、それまで行っていた内容の確認や、新しい動きを知ることでもできました。私自身リズムを行うことがとても楽しく、有意義な研修でした。その気持ちを子ども達と共有したいと、日々一緒に身体を動かしています。

研修後から今日に至るまで、職員同士で今度は何の曲をやろうかを話し合い、積極的に新しい動きも取り入れています。子ども達の中でも、馴染みのある曲や新しい曲の中にお気に入りのものがあり、「この曲がやりたい」とリクエストをしてくるなど、リズムが楽しい活動になっていると感じています。

更に今年度は、リズムに加え体操も行っています。子ども達が興味を引きそうなものを新しくいくつか教えたところ、皆気に入ったようで、体操の時間でなくても歌を口ずさんだり身体を動かしたりしています。

そして毎日の散歩では、近くの公園で遊ぶ時間をじっくり取ることもあれば、年齢にもよりますが、片道20～30分かけて歩くこともあり、色々な場所へ出かけています。ここしばらくは新型コロナウイルスの影響で公園の遊具や砂場が使えず、はじめの頃は十分に遊ぶことができるか不安でした。しかし子ども達はたくましく、そんな状況の中でも色々な鬼ごっこやゲーム、ボール遊び、縄跳びなどをして楽しんでいます。

たくさん身体を動かすことにより、保育園に帰る頃には「お腹すいた。今日のごはん何か？」と話す声が聞かれ、食への意欲、その後の午睡でぐっすり眠ることへもつながっています。今後もこれらの活動を通して、子ども達が楽しみながら体力作りができるよう、私自身も新鮮な気持ちを忘れずに、働きかけをしていきたいと思っています。

（本厚木ふたば保育園 保育士 熊田幸）



## ピックアップ5

### ◻ アトリエ ヴェルデの近況（アトリエ ヴェルデ） ◻

昨年4月に新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が出されました。

今までこのような経験をしたことはありませんでしたが、利用者の皆様方には自宅待機等のお願いをして通所を控えていただきました。

6月からは平常の状態に戻り通所を再開いたしました。再開後からマスクの着用や3密を避けての作業など、ご不便をおかけしていると思います。夏の暑い時期の冷房、あるいは冬の寒い時期の暖房をしている中でも換気のため窓の開放をしたり、また手指の消毒など感染防止策の徹底をいたしました。皆様のご理解とご協力をいただき一人の感染者を出すこともなく今日に至っています。

新型コロナウイルスの影響で作業の受注量は減少しましたが、今は少しずつですが以前のような状態に戻ってきています。今後も、徹底した感染防止策を講じて作業を行うなど、皆様の安全を第一に考えていきたいと思っています。

利用者の皆様が楽しみにされていた行事に関しましては、利用者様の安全を考えすべて中止とさせていただきます。行事の中止は残念ですが、新型コロナウイルスが一刻も早く収束し、今年は実施できることを願うばかりです。

（アトリエ ヴェルデ 施設長 石田英弘）



## ピックアップ6

### 料理の道は包丁から（調理・栄養担当者会議）

「包丁一本さらしに巻いて〜♪」若い方は聞いたことがないかもしれませんが、昭和の有名な歌の一節です。歌詞にも出てくるように、料理人のマストアイテムと言えば、包丁です。包丁には、柳葉包丁・出刃包丁・菜切り包丁・牛刀(シェフナイフ)・ペティナイフ・三徳包丁・骨スキ包丁・中華包丁等の様々な種類があります。また、刃の材質や造り、硬さ、刃渡りの長さ、刃の厚さ、重さ、重心等々、細かいところを入れると、その種類の多さはきりがありません。

この中で仕事に合わせた包丁を選ぶわけですが、集団給食の調理では牛刀とペティナイフの洋包丁が多く使われます。牛刀は、いろいろな食材に対応でき、多くの食材を切るのに適したオールラウンダーです。そして細かい作業は、刃渡りの短いペティナイフで補います。良い仕事をするには、包丁を切れ味の良い状態に調整しておかなければなりません。よく切れる包丁は、余分な力を入れずに食材を切ることができ、食材の形や旨味を損なわない調理が可能となるため爽快で気持ちよく仕事ができます。いくら高価な包丁でも手入れされていないと使い物にならず、しっかりと手入れのされた安価な包丁の方が良い仕事ができます。そして、包丁の手入れで必要となるのが研ぎの知識と技術です。実は、この大事な研ぎの作業をしっかりとできている料理人は、あまり多くありません。



話は少しそれますが、職人といえば、大工や左官、庭師など多くの職種・種類があり、腕の良い職人を見分けるなら道具をみればわかる「技量を知りたきゃ道具をみろ」と言われています。(これを道具調べと言います)料理人も持ち主の技量、仕事の癖、仕事への取り組み方が包丁に出るものです。丁寧な仕事をする料理人は、使う包丁も丁寧な手入れができていて、大雑把な仕事をする人は、包丁の管理も大雑把になります。



私は、料理人になって20数年になります。料理人として道半ばですが、包丁の取り扱いが基本だと信じて、思い入れをもって包丁に向き合ってきました。包丁を丁寧に扱っていると、他の使用する道具も大切に扱うようになります。調理道具を丁寧に、適切に使用することは、給食の基本軸である安心安全の大きな要因になります。

利用者の皆さんへ楽しい給食、そして喫食する職員へ仕事の活力になる給食を提供できるよう、道具を大切に扱い、業務に取り組んでいきたいと思えます。

(清川ホーム 主任調理師 土屋力重)

## ピックアップ7

### 気付きの大切さ（総務部）

休日は、レジャーや家の用事で過ごすことが多いですが、たまに何の用事も予定もない休日があります。そんな日は、家で過ごすことになりませんが、天気の良い日に、それほど広くはない庭の草木を眺めつつぼんやりしていると時間もゆっくりと過ぎていくのが感じられて、のんびりとくつろぐことができます。

ある日、何気なく庭の草木を見ていると不思議な光景を目にしました。風に吹かれて庭の花や葉が右に左に揺れているのですが、風が止み今まで揺れていた花や葉の揺れが止まっても、その中の1枚の葉だけが大きく揺れ続けているのです。

その揺れ続けている葉を見ていると、その葉に何か神秘的な力が働いているのではないかと思えました。もちろん神秘的な力などではなく、惰性で揺れているのかもしれませんが、そこだけが風の通り道になっているのかもしれないと思いますが、とにかく不思議な光景でした。

今まで、このような光景に気が付かなかっただけかもしれませんが、普段何気なく過ごしている日常の中で、ある時、突然に、今まで気が付かなかったことに気付くときがあります。ほんの些細なことかもしれませんが、忙しいなかでも、この気付く心を大切に持ち続けていきたいと思えます。

(総務局長 矢作政行)



